核大国の結節点にある 朝鮮半島と日本列島

歴史の転換点における 出雲の地政学的役割

金融資本主義から政治資本主義の時代へ

―これからもっと厳しい時代に突入することが考えられます。この地域の問題点はどこにありますか。

小松 出雲市では歌舞伎公演のための国立座建設の最終段階となっています。議員の方から意見を求められ、私は「事業内容、そして国家財政と社会情勢を考えれば、何回座は設ずべき」と答えました。歌舞伎の不況の現場、出雲岡田山古墳（公開）によって浮財を定めた人々、このプロセスのなかで知恵と感動の輪と笑顔が広がり、施設に魂が入り、出雲大社のように持続していけるのです。

また大きな問題になっている大橋川改修は再考すべきです。いまは上流のダムと河流の放水路に集中的に資金を投入し、早く完成させるべきです。宍道湖の水位上昇は、命に差し支えはありません。全国は濁流により命が奪われる河川がたくさんあります。そちらにお金は回すべきです。本曾有の世界経済危機と、国家的財政危機、社会不安が懸念されるなかで拡幅工事に無理に着手すれば、途中で工事が止まる可能性が非常に高いばかりではなく、島根原子力発電所のプルサーマル燃料使用可能も絡み、観光松江は壊滅打撃を受けるはずです。そうなれば推進した人たちの人格も問われかねません。「中流の住民の感情問題から大橋川拡幅はやるべき」との話がありますが、これは責任を上中流住民に転嫁する最も恥ずべき態度です。

島根県並河薫県知事は財政立直備のときにも、県の総務部長から相談を受けたはずです。行政のつとめは間違いなかったと思い、私は反対いたしました。その結果、私を外されて財団がつくられたのです。公金が浪費され、作品は死蔵され、当時の責任者は黙っています。

中海干拓中止の際にも、そのようなことがありました。そのほかにもこのようなことはいくらでもあります。

急務の対策に加えてこの地域の持続可能な未来を見通したグランドデザインとなる議論の場を設けることが緊急の課題です。このプロセスを定期的にメディアが報道すれば、構想力と具現化のための仮説のつくれる人材の発掘と養成につながり、資金が集まり、夜明けが来ます。私も奚知が集まるこの方法で、今日をつないできました。

―最近は国際平和博物館会議などに積極的に参加したり、定期的な国際会議の開催を指導しているようですが、人間自然科学研究所のコンセプトと設立の経緯は？

小松 「国際会議」とは名ばかりのローバル時代に、世界規模の金融経済危機を迎えています。これからは人類の特性である対立と共存、社会背景により異なる人間の定義と現代社会科学とともに、コンセプト（価値）、コンテンツ（映像）、キャラクター（個性）の三要素を探求し、先端技術をくみあわせてあらゆる組織を再構築しなければ社会的に繁栄できる未来は開けません。

「対立の文化の上に華開いた文明」と考え、いまはその終えん期、百年に一度の変化ではなく、人類史上初めて対立の文化から共生の文化へ転換が図れる、大胆識にいえる分水嶺に差しかかった認識しています。

―日本も世界も厳しい状況におかれています。この時代に経営者・リーダーはどうあるべきだと思いますか。

小松 まず人間の条件である「強くなければ生きられない」優しさがなければ生きる資格がない」。そのようなリーダーの条件はワインビッカー・ドリー連邦大統領の「過去に眼を固定する者は、未来に対してもやはり盲目となる」「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ。三尊徳先生の「理念なき経済は罪悪、経済なき理念は無力」、「人間は、自分と地域の未来は明るくなると思えてきました。

それからも阪に出て二年間ビジネスの実地訓練をし、オールショックの前年の暮れに、兄弟二人で大阪で調達した古八尺小型トラックの資料と工具類を積んで地元に帰って来ました。二人分の失保険金三十万円から、車と工具和の作業場敷道費を除いた残りの十万円を元手にボンブの修理業を始めました。

現実を直視、時代の風と技術を組み合わせ、思い切って現実化する繰り返しのなかで今の会社をつくってきました。倒産した二十六歳のときに、たくさんの果実が割れ目の当たりしました。その体験から、中国古典、松下幸之助翁経営話話のテープを買って繰り返し聞くなかで、「社会変動があっても絶対についていけないダメ式経営」を全部捨て、今日まで経営してきました。

三十五年の社会経営を通じて言えることは、楽しく持続的に生きるために、何を金儲けするか、そこから何を価値保し、何を譲るか。そこから「言うことはやる」の『誓い』で成功の立ち上がりました。「ベトナム戦争、東西の対立」ではなく、「自立」「国結」という言葉がひとり、虚空に響くなかで、抗争を生み出し、無気力、信の崩壊、社会崩壊に陥ります。

時代の風と環境特性を生かし、話し合いで恐怖、恨み、丁寧を止揚（アウフヘーベン）（※6）に導き、世界の夢と希望と勇気を提供する。日本と韓国と北朝鮮の問題はもちろんのこと、地域、個人間の問題も本質的にはこれです。これからのリーダーにもっとも必要とされる資質です。

―世界同時不況が懸念されています。外交、内政でも各国とも問題が山積しています。今どんな時代いう認識でしょうか。

小松 人類は狩猟、農耕社会経て、科学技術の発達とともに工業社会を生み出しました。これは過去にない貧富の格差を生む、内部対立につながり、ナショナリズムの台頭を生み、国民国家の崩壊を生む。これは過去にない大変な相害を被ることになります。

史上初の総力戦である第一次世界大戦の経験から国際連盟が発足しましたが、人類初の核兵器が使われた第二次世界大戦を防げませんでした。戦後、戦勝国を中心に国際連合を結成しましたが、朝鮮、ベトナム戦争、東西の核軍拡競争からソ連の崩壊に至り、その後の規模紛争はますます複雑化し、世界的規模の金融経済混乱を迎え、危険な保護主義の兆候も見えてきました。米国は三度に次ぐ力を伴いながら